

あちこちのざき（実績紹介） | 一般家庭から有名建築まで、建材で支えてきた岡山の街づくり

## ■材木屋の自宅の使い方その1

今日から何回かに分けて拙宅の紹介をします。  
今から60年前に材木、銘木の展示場のつもりで建築したものです。

まずは玄関から



玄関は家の顔と言われています。  
そこで重要なのは式台、下駄箱、玄関床なのですが、一番よく使われる銘木はケヤキですが、ここではマツを使っています。



よくケヤキとマツとどちらが良いか、と聞かれることがあります。  
ようは好みなので、自由にされれば良いのです。  
ただどちらが揃えにくいのか、と聞かれるとマツでしょう。  
それも**肥松**の無傷無欠点のもの。  
ケヤキのほうが大径木の良材が取りやすいのです。  
もっとも**玉杓**となると話は別ですが。  
マツの**肥松**は元株に近いところでないと取れません。

## ー 材木屋が見た木材と建物 ー



㈱ウッディワールドのざき  
会長 野崎 和良



玄関を入った正面の床は**肥松**です。



なかなかこれだけ脂が乗った**肥松**は少ないのですが、  
実はこれは材木屋ならではの使い方。  
この上の置物をとると



こんな大節が出てきます。  
一般の方にはお勧めできませんが、これで納得して  
いただけるのなら、それもありがたという使い方でした。

※肥松（コエマツ）：樹齢数百年の老松の、特に樹脂分を多く含んだ中心部分の木材  
※玉杓（タマモク）：木材の表面に現れる、玉が散らばったような同心円状の大きな模様  
※入り皮（イリカワ）：木が生きている時に樹皮に傷が付いた部分が成長せずに皮ごと巻き込まれてしまった部分のこと  
※脂ツボ（ヤニツボ）：松脂（まつやに）のような樹脂成分が、木材の内部に集まってできたもの